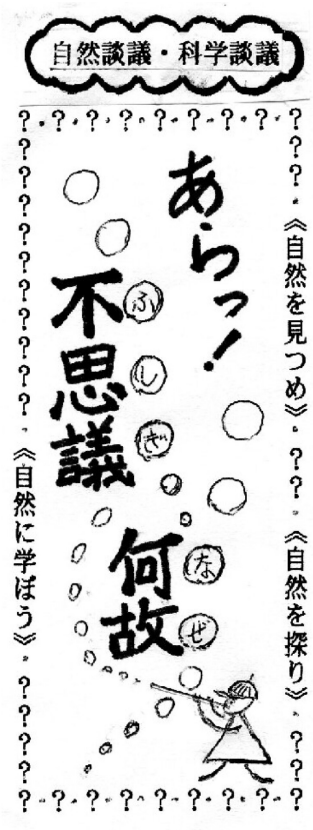

NO、５０（通算50）

絵・文・題字
渋谷　一夫

２つの玉手箱

昔話に「浦島太郎」がある。助けた亀に連れられて竜宮城へ。帰りにもらった玉手箱を開けた途端老人に…という話。　最先端の相対性理論によると、高速ロケットに乗っている間は歳を取らないが降りた途端昔に帰ってしまうという理論。
考え方は昔も今も同じようだ。本当かな…？

この毎月の連載を執筆するに当たって、調べ物をしていくと、私たちの先祖はかなり高い知識や構想を持っていたのではないかと驚がくすることがある。

「昔話の考え方」

例えば「浦島太郎」という昔話だ。助けた亀に連れられてノロノロ、ノロノロと竜宮城に案内される。楽しさのあまり、時の経つのも忘れ、気が付いたら三百年も経っていた。帰りに土産にもらった「玉手箱」を開けた途端、白い煙が立ち上がり、アッという間に老人になってしまい、周りの人たちは知らない人ばかり…という話だ。

何か「時間を超越した話」だ。

相対性理論の考え方

アインシュタインの最先端の考え方によると、もし「高速ロケット」ができ、高速で宇宙に飛び出すと、このロケットに乗っている間は歳を取らないという。だが、降りた途端に元に戻ってしまうという。「浦島太郎」の話と同じだ。

これは、宇宙の自然の動きを相対的に考えたとき、時間が伸びたり縮んだり、また早まったり遅れたりするためだと、ある本に書いてあった。
果たして本当かな…。

昔話と考えは同じ？

この考え方は、「浦島太郎」の昔話と同じではないかと思う。ただ昔話は、「相対性理論」のように学術的に理論的に構築されていないだけだ。根本的な考え方や夢は、同じなのではなかろうかと、私は推測する。

日本人の先祖の考え方に改めて感動し、また感謝し、今月で私の連載を終わりたいと思う。

連載終了に当たって

平成７年の１月号に連載を始めて、今月号で満25年、四半世紀だ。私も歳老いた。この辺で筆をおきたいと思う。

南畑の皆さん、大変お世話になりました。永い間、詰まらないテーマ、下手な文章、下手なカットや挿し絵で、よくもマア我慢して下さったと感謝しております。私自身も色々勉強させていただきました。

大変有難うございました。また機会がありましたら誌上でお目にかかりたいと存じます。

第４８回シラコバト賞受賞時の写真（2016）